

重機運搬車の定期点検 していますか？

日々、重機の積み下ろしによって高い負荷がかかっている重機運搬車。
大切な車をより長く・より安全にお使いいただくためにも日常的な点検・定期的な部品交換が必要です。
もし異常が見つかった場合は使用を中止し速やかに架装メーカー・指定する修理工場にお問い合わせください。

1. グリスアップについて

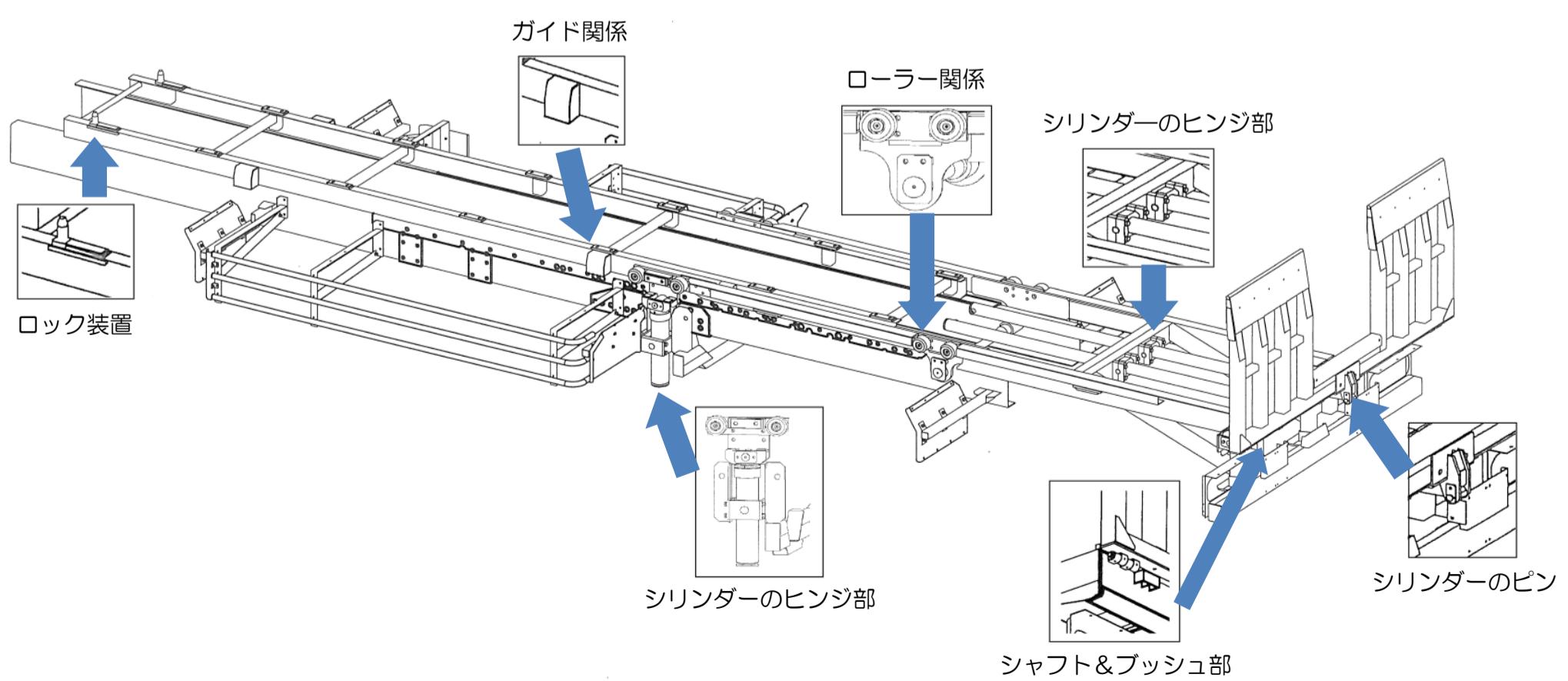
給脂（グリスアップ）の重要性

- 高荷重用のグリスを使用してください。
- グリスアップには摩擦を抑え、摩耗や焼き付きを防ぐ働きがあります。
- 油脂類は時間とともに劣化し、潤滑機能が低下して異常摩耗、焼き付き等の発生原因となります。
- 油脂管理を怠ると、製品の寿命を縮めるばかりか作業効率も低下させます。
- 摩擦が大きくなると可動部分の滑りが悪く負荷が大きくなり破損する恐れがあり、非常に危険なため、定期的に給脂しましょう。

おすすめタイミング

- 高圧洗浄機を使用した洗車後はグリスが洗い流されてしまう恐れがあります。洗車後は再塗布しましょう。
- お車を長期間使用しない場合、給脂して保管しておくことで錆の発生を抑制できます。
- グリスが汚れた時、潤滑機能が低下してしまいます。

重機運搬車の給脂箇所 参考例



※詳細は取扱説明書を参考

2.油圧ホースについて

油圧ホースの交換時期

- ・油圧ホースは2年毎に交換しましょう。

**交換時期に関わらず、
以下のようなホースは交換しましょう**

- ・ひび割れ、亀裂などがあるもの
- ・油漏れ、油のにじみ等のあるもの
- ・変色、硬化しているもの

●保守点検の実施項目表

注意 下表に従い、点検を始業前または定期的に行ってください。

適切な点検と処置を実施すれば、突発的なホースの「破裂」や継手金具の「破損」などを事前に防止できます。点検の実施については、下表を参考にしてください。

項目	主たる原因	処置
ねじ継手からの油漏れ	シート面の傷、ごみ、または異物のかみこみ	シート面の清掃
	ねじのゆるみ、またはOリングの劣化	ねじの増締め、Oリング交換
	シート面片当たり	締直し、または程度により交換
フランジ継手からの油漏れ	押えボルトのゆるみ	ボルトの締直し
	Oリング、パッキン劣化	Oリング、パッキン交換
ホースと継手の取付部の油漏れ	熱、油および長期使用などによるホース材料の劣化	交換
	無理な配管	継手金具から急激に曲げられていないか 配管方法の見直し
変形潰れ（凹）	外部からの衝撃	◎原因となるものの除外
変形皺れ	外部から油がかかる取付部からの油廻り	◎ホースの外表面保護
外傷（磨耗またはカット傷）	他部品との干渉、外部からの衝撃	◎程度により交換
外表面亀裂 (外表面に大小の亀裂発生)	オゾン、日光、または塗料の影響	◎ホースの外表面保護 ◎程度により交換
作業時に於けるホースの異常な動き (伸び、縮み、ねじれ、キンク)	ホースの長さが不適当 配管方法が不適当	交換 配管の見直し、付属金具などの使用
硬化または軟化	高低温、油による劣化	必要に応じて交換
異音、異臭、異常高温など	関連回路からの場合が多い	全回路点検
継手部発錆	砂塵、水滴付着、工業用水、塩風	防錆塗料の適時塗布、ただし、外表面は避ける

※なお、ホースアセンブリは、上記の項目で異常がなくても、使用期間が2年を越えると交換することが望ましいとされています。

（JIS B 8360, JIS B 8362 または JIS B 8364 の解説参照）

3.ワイヤーロープについて

ワインチのワイヤーロープ点検・交換の重要性

- ・ワイヤーロープは消耗品であり、長期間の使用により損傷し素線が切れたり細くなったりします。
- ・劣化や損傷したワイヤーロープを使用し続けると、重大事故に繋がる危険性があるため定期点検を実施しましょう。

ワイヤーロープの交換の目安

- ・ワイヤーロープのひとよりの間に於いて素線が10%以上断線しているもの
- ・キンク（ロープのよじれ）したもの
- ・直径の減少が公称径の7%を越えるもの
- ・著しい型くずれや著しい腐食のあるもの

荷台の定期点検を推奨しています

日本自動車車体工業会では一年に一回、プロによる荷台の定期点検を推奨しています。皆様の大切な商売道具を長くお使い頂けるように定期点検制度をお勧めします。車検では気付かれ難い荷台の異常をメインに点検していきます。

上手にご利用いただき安心安全な運行のお手伝いをさせて頂きます。

